

平成19年度 揖斐川歴史民俗資料館特別展

『ふるさと徳山』

■会期 11月9日(金)～12月16日(日)

■休館日 (11月12日・19日・26日)

(12月3日・10日)

■会場 揖斐川歴史民俗資料館展示室

■主催 揖斐川町・揖斐川町教育委員会

今年度は旧徳山村にスポットを当てて特別展を開催します。昨年の秋から始まった徳山ダムの湛水(たんすい)によって、かつてあった集落地のほとんどが湖底に沈みました。

特別展では『ふるさと徳山』と題して次の二つのテーマを掲げ、旧徳山村の歴史やそこで営まれていた人々の生活を発掘出土品や写真をとおして紹介します。

「土器が語る徳山の歴史」

徳山ダムの建設に先立って、徳山村23箇所(いせせ)の遺跡(いせせ)の発掘調査が20年の歳月をかけて行われました。発掘された住居跡や土器、石器などからは徳山に人が住んでいた時代や当時の生活の様子をうかがうことができ、また、土器の様式や石器の材質などから当時の人々の交流の範囲が推測されています。

また、縄文期の費口縁部(ひきぐち)に大きな凹凸(おとこぼ)の飾りを付けた土器は美濃の火焰式(かえんしき)土器とも呼ばれ、デザインの上からも

斬新(せんしん)で見応え(みこたえ)があります。

会場にはこれらの土器をはじめ、県内では最も古いものの一つといわれている石器など190余点の出土品を展示します。



▲戸入村平遺跡出土

「写真にみるふるさと徳山」

増山たづ子(たづこ)さん撮影(さつえい)の昭和50年代の写真や人々が生活していた頃の集落の写真、ダム(たみ)の湛水(たんすい)が進んで、その地が湖底(こそこ)に沈んでいくさまを記録した写真等(らう)を中心に展示(しんじ)します。このほか、点数(たすう)は多くありませんが徳山(とくさん)で使われていた木地鉢(きじばち)や燭台(しゆたい)、土船(つちふね)、屋根(やね)の雪おろし(ゆきおろし)のときに使ったテコ(てこ)などの民具(みぐ)も併せて展示(しんじ)します。

会期中(かいじちゅう)には特別展(とくべつてん)に関して、下記の要領(ようりやう)で講演会(こうげんかい)を開催(かいさい)します。



記念講演

■演題 土器が語る徳山の歴史

■講師 林 芳樹氏(揖斐川町在住)

■日時 11月18日(日)

13時30分～15時

■場所 揖斐川歴史民俗資料館

谷汲の郷土資料、引越しました！

谷汲郷土資料館(たにひき)の老朽化(らうこうか)による解体(かいたい)工事(こうじ)にともない、民具(みぐ)などの資料(しりょう)館収蔵(くわんしゆざう)資料(しりょう)を谷汲文化会館(たにひき)2階(にかい)へ移転(いりてん)しました。

かつて(かつて)の生業(なまご)として稲作(いな)が中心(ちゆうしん)だった谷汲(たにひき)地域(ちいき)には、古い農具(のうぐ)の数々(かずかず)やわら細工(わらこ)はもちろ(もちろ)ん、養蚕(やうさん)に関する用具(ようぐ)や食生活(しょくせいかつ)、日常生活(にちじふせいかつ)の道具(たのぐ)など300点(さんひゃくてん)以上(いじやう)が残(のこ)されています。これら(これら)民具(みぐ)は、先人(せんじん)のくらし(くらし)を物語る文化財(ぶんかざい)です。

今後は(こんご)機会(きかい)をとらえて資料室(しりょうしつ)を開放(くわんぱう)し、多く(おほく)の皆様(みなさま)にご覧(ごらん)いただきたいと思(おも)います。

